

📅 10月7日 熊本大学山崎記念館

平成27年度第2回保健事業支援・評価委員会

データヘルス計画に関する市町村の質問に助言

委員7人のほか、「国保ヘルスアップ事業」を実施している10市町村から担当者21人が出席した。荒木栄一委員長（熊本大学大学院生命科学研究部代謝内科学教授）の挨拶の後、出席した各市町村から事前に寄せられていたデータヘルス計画や個別の事業計画に関する質問に対し、各委員が意見を出し合って助言した。

質問で最も多かったのが医療機関受診中の人に関するところで、治療中を理由に特定健診を受診していない人をどう受診に結び付けるか、あるいは、特定健診受診結果から保健指導が必要な人にどう関わるかなどの問題には、どの保険者も苦慮していることがうかがえた。委員からは、「治療中でない人への受診勧奨も大切にしながら対応して」「医師会報にも特定健診のことは掲載されているが、受診のメリットを医師や住民に理解してもらえよう一層の工夫を」「圏域ごとの課題ととらえてそれぞれの医師会に働き掛けを」「医療機関では治療中の疾患しか診ていないこともある。市町村の持つ多くのデータを基に医師会と話し合うことも有効では」などそれぞれの立場で多様な助言がなされた。

その他、若い世代への受診勧奨や眼底・微量アルブミン・心電図など各種検査の結果の見方、有所見者へのアプローチの仕方など多くの質問が出されていて、委員は意見を交わしながら助言した。

📅 10月19日 市町村自治会館

平成27年度国保主管課長会議

地区協議会助成金、保健事業関係負担金、番号制度へのシステム対応状況などを報告

県内各保険者の国保主管課長など約50人が出席し、熊本県国保・高齢者医療課からも臨席のもと開催。本会総務課・保健事業支援課・情報システム課からそれぞれ説明した。

○熊本県国保連合会積立金の処分に伴う保険者返還について〈総務課〉

7月の本会総会で議決された積立金の処分に関する各保険者への返還額及び計算方法、返還時期などを説明した。

○熊本県国保連合会地区協議会助成金について〈総務課〉

本会では、県内11の国保地区協議会に対し、助成金交付要項を設置して助成金を交付しているが、今年度の変更点（事業実績報告書の記載方法や添付資料など）を説明し保険者の理解と協力を求めた。また、今後の助成金のあり方などに関する地区代表者会議を開催予定であることを伝えた。

○保健事業等保険者支援負担金について〈保健事業支援課〉

まず、県内の特定健診受診率等の年次推移や平成26年度における重症化予防対象者の状況などを説明した。続いて、「データヘルスの推進に向けた健診・レセプト等のデータを活用した予防、健康づくりの充実事業」「広報共同事業」について説明し、平成28年度の各事業保険者負担金についてお願いした。

○国保保険者標準事務処理システム開発案及び国保共同電算システムにおける番号制度（マイナンバー制度）への対応について〈情報システム課〉

まず、国保中央会が示している「国保保険者標準事務処理システムの開発計画」案について説明した。（各保険者での活用意向調査が平成 28 年度中に見込まれている。）

続いて、国保共電システムにおける番号制度への対応として、国保中央会が現行システムを改修し平成 28 年 1 月から必要な機能を実装することにしており、その内容を説明した。今後、個人番号を用いて医療保険の資格確認をオンラインで行う構想について、その仕組みも図を示して説明した。

最後に今後の開発スケジュール案を示した上で、情報セキュリティ対策として平成 28 年 1 月から運用予定の「国保中央会・連合会における情報系ネットワーク」について説明し、各保険者に対しても USB などのセキュリティ対策の徹底をお願いした。



📅 10月19日 市町村自治会館

平成 27 年度熊本県保険者協議会 第 2 回合同専門部会

保険者の共通課題の解決に向けて討議

保健事業部会と医療費分析部会から委員 23 人が出席して開催。

まず、今年度で開催した「特定健診・特定保健指導担当初任者研修会」の初級編（6 月）と実践編（9 月）について事務局が報告した。また、7 月から 8 月にかけて各圏域で開催された第 1 回地域医療構想検討専門部会についても報告した。（同部会には保険者協議会から委員を選出している。）

続いて 5～6 人ずつ 4 グループに分かれて「保険者間の課題共有」「データヘルスの推進に向けての検討」というテーマで討議した。関連して、熊本市から「熊本市国保医療費から見る健康課題」について情報提供もあった。

保険者協議会事務局では、今回の討議内容を各構成団体における今後の活動の参考にしていただきたいとしている。



📅 10月31日 熊本テルサ

第20回熊本県国保地域医療学会

地域住民の医療・ケアや健康づくりを担う専門職が、日頃の取り組みを発表

「地域における医療と保健・介護・福祉の連携をめざして」をテーマに開催し、26題の研究発表と特別講演が行われた。熊本県国民健康保険診療施設協議会、熊本県市町村保健師協議会、本会の主催で、熊本県内の国保直診施設、保険者、医療機関、介護関係施設などから約350人が参加した。



開会式で挨拶する志垣学会長

【研究発表】

医療関係者などが、業務に関する研究の成果を五つの演題分類ごとに発表した。発表者の職種別内訳を見ると、看護師・准看護師によるものが19題と最も多く、保健師3題、医師2題、社会福祉士・臨床工学技士がそれぞれ1題であった。

演題分類と発表数：看護に関するもの（5題）

栄養管理、保健事業、歯科・口腔ケアに関するもの（5題）

リスクマネジメント、連携、在宅医療・ケアに関するもの（5題）

看護、臨床に関するもの（6題）

看護、ターミナルケアに関するもの（5題）

【特別講演】

“ココナッツオイルで認知症を予防”

白澤卓二氏（日本ファンクショナルダイエット協会理事長）

原因不明で進行性の神経変性疾患であるアルツハイマー病は、人口の高齢化とともに患者数が激増し、日本でもアメリカでも大きな社会問題になっている。白澤氏は、一人のアメリカ人医師が実践したココナッツオイルによるアルツハイマー病の改善例を紹介し、ココナッツオイルに含まれる中鎖脂肪酸がアルツハイマー病の改善に機能するメカニズムなどについて解説した。



学会終了後に優秀発表選考会が行われ、最優秀発表1題と優秀発表4題が選ばれた。表彰式は、来年度本学会の開会式後に行うことになっている。（選定結果は次頁参照。）

○最優秀発表

【看護・ターミナルケアに関するもの】

「遺族が求める緩和ケア病棟のケアの質評価～遺族調査から見えたもの～」

山鹿市民医療センター 看護師 山下美咲氏

(A 病院緩和ケア病棟では、開棟から 3 年経過した中で、入棟からグリーフケアまで続く患者・家族への全人的なアプローチの難しさを感じてきた。そこで、ある期間に看取った患者の遺族を対象に、ケアの評価や遺族の心残りについてアンケートを実施し、その結果を分析して報告した。)

審査では、遺族へのアンケート調査は実施例が少なく、その分析結果は今後の看取り看護に活用できると思われることが評価された。

○優秀発表

【看護・臨床に関するもの】

「高齢者へのフォルトテオ導入におけるアプローチ

～『ぴしゃっと・しゃんと』を製作しての一考察～」

小国町外一ヶ町公立病院組合小国公立病院 看護師 石松由美氏

【リスクマネジメント、連携、在宅医療・ケアに関するもの】

「心電図モニターアラームに対する看護師の意識変化」

阿蘇医療センター 看護師 緑貞明氏

【栄養管理、保健事業、歯科・口腔ケアに関するもの】

「生活習慣病予防に向けた母子保健事業の見直しについて」

山鹿市役所福祉部健康増進課 保健師 長迫尚美氏

【看護に関するもの】

「当病棟におけるカンファレンスの進め方

～思考フレームワークである KPT を導入して～」

熊本市立植木病院 看護師 森本絹子氏